

# 津田塾大学

ウェブマガジン「plum garden」編集部



編集会議にお邪魔して撮影。前列左から相川真菜さん(英文学科4年)、岡崎碧さん(同2年)、石川優香さん(国際関係学科2年)、職員羽鳥さん。後ろは郷路准教授

## サークルでもゼミでもない！ 「学生×教員×職員」の新コラボ

1世紀以上も前より女子高等教育の必要性を唱え、女性の地位向上こそが日本の発展になるという理念を生涯持ち続けた創立者、津田梅子の意志を受け継ぐ津田塾大学。実は今、歴史と伝統のある女子大として名高い同大学が立ち上げたウェブサイト、他大学からも注目が集まっています。今回お話を聞いたのはサイトを運営する教職員のお二人。さて、どんな逸話が飛び出すでしょうか？

### 記事の配置を工夫して 大学公式サイトと差別化

津田塾大学の数ある取り組みのなかに、ちょっとユニークで、既存のメディアにはない魅力を放つプロジェクトがあります。やわらかいネーミングとタイトルで構成されたデザインが目を引くウェブマガジン「plum garden」(プラムガーデン)で、2014年12月、大学公式サイトサブコンテンツとしてスタートしました。

当初、受験生向けのサイトとして立案されましたが、検討を進めるなか、「受験

生にのみ目を向けていいのだろうか」と疑問を感じたのが、現在も企画面での全面サポートを担う郷路拓也准教授でした。また、既存の大学公式サイトと補完的な関係になるよう、「公式では前面に出てこない情報を、違う見せ方で取り上げたい」とも考えたのでした。

一般的な大学公式サイトは、いくつもの階層をもち、カテゴリー別に掘り下げていく構造が多数です。しかし、そのため縦のつながりはできて、横のつながりがもてない仕組みになっています。こ

うした現状に、立案に携わった教職員は少なからず疑問を抱いていました。「プラムガーデンの重要な特徴として、一つひとつの記事を階層化せず、フラッ



プラムガーデンのトップページ。記事をタイトル状に並べたレイアウトが特徴。(http://pg.tsuda.ac.jp/)



## プラムガーデンは 学生が大学と世界をつなぐ 「結節点」になれる場所

学芸学部英文学科 郷路拓也 准教授

トに並ぶ構造にしていることがあげられます。見覚えのあるサイトと同じものをつくっても意味がないと、差別化、あるいは話題性、オリジナリティという点で、かなり早い段階で『デザインはタイトル状に』というコンセプトが決まりました(郷路准教授)

ところが、サイトの骨格は形成されたものの、こうした形式のサイトは、こまめに更新しないと飽きられてしまいます。一体誰がやればいいのでしょうか。一案とされたのが「外注」です。しかし外注は費用負担が増え、また、意図しない方向でデザインがパターン化されてしまうと懸念されました。そこで「学生中心の編集部を立ち上げよう」というアイデアが生まれたのでした。

「日頃学生と接するなか、大学に愛着を持つ学生も少なくないと感じていました。その愛着を発信する場がないのはもったいないと思い、学生が考える魅力を、外に向かって堂々と発信できるフィールドをつくることで、新しいサイトができると考えたのです(郷路准教授)

### 学生の視点で生まれた アーカイブメディア

「最初に編集部員を募集する際、“わたしがつなぐ津田塾と世界”というキャッチコピーをつくりました。要するに大学公式のウェブマガジンではあるけれども、“わたし”がこの大学で経験したことを世界に見せたい、という思いに

のつとったサイトというわけです。こうしたモチベーションに基づくコンセプトづくりや記事の見せ方は、大学広報として斬新だったと思います。本当はもっと遊んでもいいと思っているのですが、根が真面目と言いますか(笑)。学生のやりたいことには歴史取材的なものも多く、記事にするため過去40年分の資料を調べ、まるで卒論のような壮大な記事になったりすることもあります。こうした活動で津田塾の歴史が紐解かれ、メ

ディアに残ることは、大学のアーカイブとしても価値があります(郷路准教授)

企画広報課の羽鳥可奈子さんも、相談役として関わりつつ、メディアそのものの存在を楽しんでいる一人です。

「先生方も学生からの取材は嬉しいようで、私たち職員が知らないエピソードも話してくれます。私も読み物として毎回楽しみに読んでいますよ。これからも大学への愛情をベースにポジティブな情報を発信し、津田塾ファンを増やしていけたら、と思っています」

現在の編集部員は20人程度で落ち着いているようですが、部員は異口同音に「次から次にやりたいことが出てくるため、もっと時間が欲しい」と話しています。サークルでもゼミでもない、新たな「学生×教員×職員」の組織であるプラムガーデンには、無限の可能性が秘められているようです。

## 記者の感性と熱意を 純度の高いまま発信し 大学の魅力を伝えたい

企画広報課 羽鳥可奈子さん



### 学校散歩

#### キャンパスを彩る 2つの歴史建築

本館は、早稲田大学大隈記念講堂などを手掛けた佐藤功一の設計で、1931年に竣工しました。歴史を感じさせるタイトル張りの外観と、さまざまな意匠が凝らされた館内は、丁寧なメンテナンスによって当時の姿を伝えています。

“積層式”の図書館は、東京都庁舎を設計した丹下健三によるもの。いずれも日本の代表的な歴史的建造物として高く評価されています。



本館(上)は津田塾大学のシンボル。図書館(右)の一角には、津田梅子資料室が併設されています

